
1. 古代民主政と民主主義の思想

— 1 — 1. 古代の民主政治：アテネとローマ

●古代ギリシアの歴史

BC2000 頃	ギリシア文明の発祥(クレタ島)
BC1700 ~ 1200	クレタ文明、ミケーネ文明
BC800 頃	ポリス(都市国家)の成立、ギリシア人の植民拡大 → アテネ・スパルタの繁栄
BC490 ~ 478	ペルシア戦争: ギリシア連合軍のペルシア帝国に対する勝利 アテネを中心とするデロス同盟の結成、スパルタ中心のペロポネソス同盟との対立激化
BC431 ~ 404	ペロポネソス戦争、スパルタの勝利
BC362	ギリシアの覇権、マケドニアに(ポリス時代の終焉)

●アテネの民主政

BC8c	王政から貴族政への移行、9人の頭領(1年任期)+長老会議による政治
BC7c	商工業者の台頭、自作農階級の不満…… demos
BC594	ソロン改革……資産政 timokratia 資産(不動産)に応じて市民を区分、権利義務を規定。 1 騎兵 要職 2 騎兵 要職 3 重装歩兵 行政官僚 4(無産) 軽装歩兵 選挙権のみ(被選挙権なし)
BC510	クリステネスの改革……民主政 demokratia の誕生 「デモ」の導入 地域による人間集団の区分(それ以前の家系・一門を廃止) 所有地の分断 貴族階級の基盤崩壊 四階級は存続 ただし不動産収入のみならず全収入を基盤に

民主政の政治組織

民会	20歳以上の市民全員が出席、一人一票。年数回開催。ストラテゴを選出。
(実務担当者)	30歳以上の市民から抽選で選出、500人。
ストラテゴ	政府役員。1年任期、10人。

ペリクレス時代(BC460-430)

アテネの最盛期。抽選による選出に加え、報酬を支給することに → 民主政の完成。

我々アテネ人は、どの国の政体をも羨望する必要のない政体を持っている。他国のものを真似して作った政体ではない。他国の方が手本にしたいと思う政治体制である。少数のものによって支配されるのではなく、市民の多数が参加する我々の国の政体は、民主制(デモクラティア)と呼ばれる。

この政体下では、すべての市民は平等な権利を持つ。公的な生活に奉仕することによって与えられる名誉も、その人の努力と業績に応じて与えられるのであり、生まれや育ちによって与えられるのではない。貧しくとも、国家に利する行為をしたものは、その貧しさによって名誉から外されることはない。

我々は、公的な生活に限らず私的な日常生活でも、完璧な自由を享受して生きている。アテネ市民の享受する自由は、疑いや嫉妬が渦巻くことさえ自由というほど、その完成度は高い。

(ペリクレスの言葉、トゥキディデスによる)

ペロポネソス戦争以降……崩壊(衆愚政)

●**スパルタの政体**

ドーリア民族の征服国家。支配・被支配階級の分化。

- スパルタ人……自由市民(1万人前後)+家族。軍役のみに従事、国政参加権。
- ペリオイコイ……商工業者。自由民だが参政権なし。兵役義務あり。
- ヘロット……農奴。ほとんど権利なし、軍役なし。

世襲制二頭政治 **diarchia**

- 王(2人) 名門家系の出身者
- 長老会議 市民集会で選出。60歳以上の28人。終身。

BC7c 後半 リュクルゴスの改革 → 「スパルタ式」の完成

●**共和政ローマの政体**

- BC509 王政から共和政への移行(ルクレツィア伝承)
- BC494 護民官の創設 ← 貴族 **patrici** と平民 **plebs** の対立
- BC453-2 ギリシア視察
- BC451-0 十二表法
- BC390 ケルト人の侵入

リキニウス法による政治改革(BC367)

- 公職……任期終了後に元老院議員
 - 執政官 (2人、任期1年、再選可) **consul**
 - 法務官 (1人(のち16人)) **praetor**
 - 財務官 (2人) **censor**
 - 護民官 (2人(のち10人)、平民集会による選出) **tribunus plebis**
 - 独裁官 (非常時に選出、任期6ヵ月、1人、執政官による指名) **dictator**
- 元老院 (300人、終身) **senatus**
- 民会……ケントゥリア民会
 - ケントゥリア=百人隊を1票とする投票。

我々の知っている政体には、次の三つがある。王政と貴族政と民主政である。ローマ人に向かって、あなたの国の政体はこの三つのうちのどれかと尋ねても、答えられるローマ人はいないだろう。／執政官にのみ照明を当てれば、王政に見える。元老院の機能にのみ注目するものは、貴族政以外のなにものでもないと言うだろう。民会を重要視するものならば、民主政だと断ずるに違いない。(……)ところが、ローマの政体は、この三つを組み合わせたものなのである。(ポリビウス)

	財産(アッシス)	軍制	票数
第一階級	100000 以上	騎兵 18 重装歩兵 80	98
第二階級	75000-100000	重装歩兵 20	20
第三階級	50000-75000	歩兵 20	20
第四階級	25000-50000	歩兵 20	20
第五階級	12500-25000	歩兵 30	30
階級外	無産者	歩兵 5 (予備役)	5
計		騎兵 18 (1800人) 歩兵 175 (17500人)	193

— 1 - 2. 民主主義をめぐる思想 —

●古代民主政の理想化……ハンナ・アレント Hannah Arendt (1906-1975)

『人間の条件』The Human Condition, 1958

人間の *vita activa*(行為生活)を理論的に考察

労働 labour 肉体の生物的過程に対応、生命維持のための行為
仕事 work 理念を対象化し、人工物を構成する行為
活動 action 人々の関係を構築する自発的行為

政治 = 自由・対等な市民の自発的共同行為(活動)

公的・政治的な領域(*polis*)と、生命維持のための私的領域(*oikia*)の二項対立

平等な市民が、ロゴス(*logos*: 理性・言論)を媒介として共通の公的事項に関わる自由な活動

→ 共同行為による共同体的権力の形成 = 自由の実現

政治・社会・文化への「技術的・科学的衝動」の浸潤を警戒、古代ギリシアのポリス的生を理想化

●民主政批判……プラトン

統治にふさわしい能力を持たないものによる「衆愚政治」

実現すべき「善」を知り、欲望を抑制できる「哲人王」による統治を主張

個人の魂と国家の相似性を前提、私利私欲を持たない→私財・家庭を持たない「哲人王」

『国家』*Politeia* (G.) / *Res-publica* (L.)

正しい国制からの墮落形態

名誉支配制、寡頭政、民主政、僭主独裁政

『法律』*Nomoi* (G.) / *Leges* (L.) 第3巻

ペルシア的専制支配体制 君主(国民の隷従)を過剰に尊重

アテナイ的民主政 自由を過剰に尊重

優れた国制には集権と自由の適度なバランスが必要→スパルタを支持

官職 護法官…… 50歳以上の国民から慎重な選挙で選出

それ以外の官職は選挙と抽選の併用

●混合政体論……アリストテレス

『政治学』*Politeia* (G.)

思慮深さ……現実認識の上に、理想を追求する中庸としての徳 *Arete*

現実認識 六政体論

理想追求 最終目的としての幸福……徳治主義(有徳者支配の系譜)

善悪／人数	一人	少数	多数
良い支配	王政	貴族政	国制
悪い支配	僭主政	寡頭政	民主政

混合政体論……王政・貴族政・民主政の混合

共和政ローマ(執政官、元老院、民会)の抑制均衡 ← ポリュビオスの定式化

スパルタ、のちヴェネツィアが典型例。またイングランド(フランス絶対王政との比較)。

権力分立論の先駆的形態。

—— 1 - 3. 古代民主政の崩壊 ——

ギリシア デマゴギーと衆愚政治による崩壊(Leadership 過小)

ローマ 私的権力の拡大による崩壊(Leadership 過大)

●共和政ローマの変質

BC200 頃 第2次ポエニ戦争の終結、覇権国家ローマの成立

社会階層の固定化、貧富の差の拡大

属州シチリアからの小麦流入

奴隷の大量流入 → 大規模農業の発展 → 自作農階級に大きな打撃

商工業の発展

→ 社会内部での実力の偏在化、市民軍(戦費自弁・徴兵制)の空疎化

●グラックス兄弟の改革

兄 ティベリウス・グラックス (BC134-133) Tiberius Sempronius Gracchus

センプローニウス農地法の制定……国有地借地権の制限、自作農育成

護民官権限(身体不可侵)に関わらず元老院強硬派に殺害される

弟 ガイウス・グラックス (BC124-121) Gaius Sempronius Gracchus

農地法の再活性化を企図、植民都市の建設、ローマ市民権の拡大を提案

「元老院最終勸告」Senatus Consultum Ultimum(非常事態宣言)の布告、逃亡中に自殺

●マリウスとスッラ——共和政の基盤喪失

マリウス (BC157-86) Gaius Marius

BC107 マリウスの軍制改革

市民からの徴集による軍編成の放棄。募兵制の導入(貧困市民の軍への流入)。

職業軍人の誕生 → 退職問題の発生

軍事リーダーとの庇護関係 clientera 発生、ローマ軍団の私兵化

スッラ (BC138-78) Lucius Cornelius Sulla

BC88 庇護民 cliens による軍隊でローマ進軍、占領(BC88 マリウスによる再占領、BC82 奪還)。

BC81 独裁官指名(無制限の imperium)

●ローマ共和政の終焉——カエサル

ユリウス・カエサル (BC100-44) Gaius Julius Caesar

BC59 ポンペイウス、クラッススとともに第1回三頭政治開始

BC44 終身独裁官に就任……非合法権力の合法的奪取

神格化、オリエント的専制君主への接近

同 3.15 暗殺

BC36 アウグストゥス Augustus (Octavianus) による元首政 Principatus の開始(BC19 頃完成)

終身 imperium の保有、元老院議員の第一人者 principatus としての統治

●共和政はなぜ崩壊したのか？

古代民主政の特徴……集中された暴力の欠如

常備軍・警察機構の不在。正義実現は、その都度持ち寄って形成された暴力によっていた。

貧富の差の拡大 → 他者によって掣肘できない大規模な権力の誕生

中世からの国家再建

中世(封建制) 各人が実力を保有する社会。

フェーデ(適法・正当な反逆)……自力救済の広汎な承認。

絶対王政 実力の集中化、暴力の独占。

人称的権力から非人称的権力への転換 → 市民革命